ひびきあい

飯綱町立牟礼小学校「学校通信」
No. １４　令和２年１１月３０日
文責：髙原

第４回 飯綱町町長さん登場！ わくわく未来塾

11 月 11 日（水）のわくわく未来塾には、峯村勝盛飯綱町町長さんをお迎えしました。「チョウチョウ？（町長）さんて、どんなお仕事をしているの？」小学校の子どもたちには見えにくいお仕事の中身を教えていただきました。また、未来の飯綱町を担う子どもたちに熱いメッセージもいただきました。

お話の概要

【小学生の頃】

〇生まれはこの飯綱町の平出で、とても遠く、昔はスクールバスもなかったので、１年生から３年生までは平出分校という小さな学校に行って、４年生から牟礼東小学校に通った。

〇昔は、ずっと歩いて学校へ通ったので、１時間以上かかった。雨降りの日とか、暑い夏の日とか、雪が降って寒い日などは、「学校へ行くの、嫌だなあ」とよく思った。「自分の家が学校の近くにあったらいいなあ」「学校の近くに家を造ろうかなあ」そんな夢を持ったこともあった。

〇途中から仲間がいっぱいいたので、みんなと話しながら学校へ来たけれど、長い間歩いていると、いろんなことを考えた。あの頃は、野球がものすごく盛んで、「ようし、野球の選手になろう。ジャイアンツの３塁手、長嶋茂雄みたいになろう」と、そんなことも思ったりした。あるときは、学校の先生っていい仕事だなあと思ったり、お医者さんも人を助けてすごいなあと思ったりしたが、不思議なことに一回もなろうと思って夢に見なかった町長になってしまった。

【なぜ、町長になったか】

〇役場の職員として３７年間、勤めた。最後の頃、牟礼村と、隣の三水村という２つの村が合併することになった。少し人口も減ってきたこともあり、この２つの村を一緒にすればだいぶお金の節約ができるだろう、また仕事を効率的にできるだろうというのが合併の大きな目的だった。それで、平成 17 年 10 月１日、牟礼村と三水村が合併して飯綱町が誕生した。

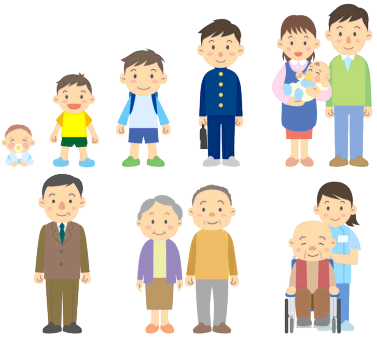
〇きのうまで別の村で生活していて、それぞれのルールやきまりで生活してきたが、今度は一緒になって同じルールで生活をしていくことになる。皆さんも、クラス替えをしたとき、すぐ、新しい友達と大の仲良しになれるだろうか？しばらくは、今までとっても仲良かったお友だちのところへ行って、「一緒に遊ぼう」とかすると思う。合併も同じこと。「一緒になってみたけど、前の方がよかったなあ」等と考える人がいっぱいいる。そういう考えでは、合併した意味がない。できるだけ早く仲良くなり、みんなで助け合うような町にしたい。それには、長い間職員を務めてきて、どういう村か、人々がどういう気持ちかよく分かっている人がしばらくはリーダー、町長になった方がいいだろうと、そう思って立候補した。

〇今はほんとに合併してよかったなあと思ってもらえるように、合併して損しちゃったなんて思っている人がほとんどいないくらいになった。私は、大きな一つの仕事を達成したと、そう思っている。

【町長の仕事】

〇ただ、町長という仕事は大変で、まず休みがない。365 日、毎日仕事があれば出ていかなければならない。また、24 時間体制である。災害があれば、「町長、来てすぐ避難命令を出してほしい」となる。これは「夜中の１時だから、明日の朝にしてください」という訳にはいかない。お正月も、朝の６時から仕事がある。

○町長の仕事は、みんなが産まれたときから、保育園に行く、学校に行く、そして、大人になり、結婚して家を建てる、お仕事に行く、全部、町長の仕事が関係してくる。今、役場には 130 人ほどの職員がいて、それぞれの担当の仕事をしている。飯綱町は 1 年間に 140 億円のお金を使っている。それを、どこに、誰のために、どのようにいつ使えばいいかということを決めるのが町長の仕事。だから私は、140 億円がどこにどのくらい使われているか、だいたい頭に入っている。これは長い間、そういう仕事をやってこないとなかなか覚えることはできない。140 億円のお金を上手に使って、みんなが幸せになることを目指しているのが町長としての私の大きな仕事である。



【仕事のやりがい】

○町長の仕事は大変だけれども、とてもやりがいがある。「町長、飯綱病院という病院があって本当に助かった。おじいちゃんの命が助かった。私がけがをしたときも、すぐに診てもらった」「町長、道を直してもらってありがとう」「町長、いい学校を造ってもらってありがとう」等々、本当に心から喜んでもらえた時は、大変やりがいがある。みんなのところにもいろんなお金を使っている。（体育館の西側に）大きな駐車場を造った。去年は教室に冷房装置を入れた。今年は一人一人にタブレットを配付するようにした。このように、みんなに喜んでもらえる仕事をしたとき、やりがいがあったなあと思う。

【みなさんへのメッセージ】

○私は（このコロナ禍の前は、種々の行事の際）、学校へ来て、みんなに会うチャンスがあった。最初は、みんなよその家の子どもだけれども、何回も学校へきて、みんなに会うたびに、どんどんとみんなのことがかわいくてかわいくてしょうがない気持ちになった。もう、自分の子ども、自分の孫みたいな、そんな気持ちである。だから、みんなにはちゃんと勉強して、とっても素晴らしい幸せな人生を送ってほしい。そのために精一杯のことをしてあげようと、今、そういう気持ちでいっぱいである。

○みんなさんには、今日帰ったら、お父さんやお母さんやおじちゃんやおばちゃんに、「『飯綱町っていう素晴らしい町に住んでいるんだよ』と町長が言っていたよ」とお話してほしい。長野県にはいろんな市や町や村があるけれども、どこの町や村に行ってみても、交通の便がよく、豊かな自然に囲まれているこの飯綱町ほど素晴らしいなあと思う町はない。だから、大いに誇りを持って生きてほしい。ぼくたちは、素晴らしい町に住んでいるんだと、そういう誇りをもち、大人になったらその気持ちをもって世界へ飛び立ってほしい。みんなが働く場は山ほどある。英語も、フランス語も、ドイツ語も必要だろう。だったら、そのために一生懸命勉強してほしい。そんな君たちが素晴らしい大人になったそのとき、また会うことを楽しみにしたい。最後に、町長の話を聞いて、「ああ、ぼくも町長ぐらいならやってみたいなあ」と、ぜひそう思ってほしい。町長って仕事は、休みはないけど、非常におもしろい、素晴らしい仕事だと思う。

子どもたちの感想より

ちょうちょうさんは、わたしたちのこともかんがえてくれてるから、わたしもちょうちょうさんが、たくさんしごとをしているのをおもいうかべて、わたしもたくさんがんばります。（1年）

ぜひあたしもりっこうほをして、みねむらちょうちょうさんみたいになりたいとおもいます。おしごとをにじゅうよじかんやってきてすごいなぁとおもいました。ちょうちょうさんは、やすみをとらなくてとてもやりがいがあるなとおもいました。これからもがんばってください。ぜひこのまちをまもってください。（1年）

ちょうちょうさんは、おしごといっぱいしてたいへんでしょ。だから、なるかならないかなやんでいます。かじになったら、しじをだすからかっこいいとおもいました。（1年）

みんなのことをかんがえてすごいとおもいました。ぼくもみんなのことをかんがえていきていきたいです。（1年）

みね村町長さんは、いいづな町のみんなのためにたいへんなおしごとをしていてかっこいいなと思いました。365日毎日おしごとをしているなんてすごいなと思いました。いいづな町は、いいところだなと思いました。いいづな町に住めてうれしいです。（2年）

むれ小学校のみんなが大好きになってくれるなんてうれしいし、みんなのためにそんな140おく円のお金をつかってるなんてすごいことだし、やっぱり町長さんになってみたいなと、お話を聞いた時に思って、自分のお仕事リストがふえてうれしかったです。（2年）

わたしは、いいづな町が大すきでしたけど、みねむら町長さんの話を聞いて、もっといいづな町がすきになりました。立こうほするってどういうことなのか考えてみたくなりました。わたしたちがへいわにくれせるのは、町長さんのおかげだと知りました。（3年）

今日、仕事のお話を聞いて、ゆめはまようけど、子どもからおとなになっていくと、ゆめがせいちょうして、その仕事をやっていると、だんだんたのしくなってくるのが、お話を聞いてわかりました。（3年）

わたしは、町長さんのお仕事は、何も知りませんでした。でも、それは、お金を出す場所を決めたりだとか、いろんなものがありました。一番おどろいたのが、365日ずっと休みなしでお仕事をしていることです。わたしたちのために、町長さんは大変なお仕事なんだと思いました。わたしもやりがいのあるお仕事をしたいです。（4年）

みね村さんは、みんなのために町長さんになったというのがすごいなあと思いました。もし、私が町長になったら、みんなの見本になれるか心配です。みね村さんは、子どものころ、たくさんのゆめをもっていたことが分かりました。でも、みんなのためにがんばりたいと思って、なりたい中に入ってないゆめにきめたのがすごいと思いました。（4年）

町長さんは大変な仕事なんだと思いました。元日のあいさつを有線で聞いたことがあるけど、かっこいい仕事だと思ったし、今日の話を聞いて少しびっくりしたところもありました。町長さんが、「飯綱町以上にいい場所はない」と言われた時は、くぼたさんに言われた時と同じで、やっぱりやっぱり飯綱町に生まれてこられてよかったと思いました。町長さんの力ってすごいと思いました。（5年）

町長さんは、飯綱町が大好きなことが分かりました。わたしは、長野県で生まれて飯綱町にずっと住んでいたので、自分がほめられているかのように聞いていました。これからも、わたしたち飯綱を守ってほしいと思いました。（5年）

町長さんは、「365日働かなくちゃいけないけど、やりがいのある仕事なんだな」と思いました。また、わたしたちがまごのようなそんざいだと言われたときは、おじいちゃんが、もう一人できた気がしました。（5年）

町長さんの仕事は、みんなのことを考えて、お金の使い道を考えているから、みんなが気持ちよく快適に過ごせるんだなと思った。だから、私もしょう来、みんなのためになる仕事をしたいなと思った。（6年）

町長さんは、私たち町民のために140億円も動かしてくださっていたことが分かって、本当にすごい仕事と分かりました。町長さんの仕事は、365日、24時間ずっと働いていると聞いて、「いやにならないのかなあ？」と思っていましたが、でも、大変なほどやりがいがあったり、「ありがとう」と言ってもらえたりするので、町長という仕事はすばらしいと思いました。（6年）

第5回 講師は院長先生 わくわく未来塾

19日（木）には、飯綱病院の伊藤一人院長先生をお迎えしました。お忙しい中、普段見ることのできない病院の施設や働いている方々のたくさんの写真をご用意いただき、丁寧に教えていただきました。いつもお世話になっている病院だけに、子どもたちは身を乗り出して真剣に見ていました。

お話の概要

【飯綱病院と医療従事者について】

○飯綱病院で働いている人は、２５０人くらいになる。

○医療従事者になるためには、小学校、次は中学校、次は高校、その先に大学とか専門学校に入らないといけない。だいたい３年から、私たち医師、歯科医師、薬剤師は６年間大学に行かないといけない。その後、国家試験というのを受けて、免許をもらわないと医療従事者にはなれない。そしてチーム医療といって、みんなで協力して仕事をしないといけない。

○今、コロナの感染症が大変で、病院も入るときにチェックが必要。面会もできない状況。そこで防護服というのを着て、訓練をした。

【飯綱病院の施設と働く人の紹介】　　**※写真を見ながら、説明していただきました**

○ドクター…外来，病棟，保育園の検診，手術　○看護師…外来で補助，注射，病棟のナースステーション
○歯科医師・歯科衛生士…治療，口の中の掃除　○薬剤師　○診療放射線技師…レントゲン・ＣＴ・ＭＲＩ
○臨床検査技師…血液の検査，心電図，コロナの感染症の抗原検査
○理学療法士・作業療法士・臨床工学技士…リハビリテーション，透析・エクモの治療
○管理栄養士…食事を考える　○医療事務…会計など　○設備管理　○売店…毎日焼きたてのパン

【なぜ医者になったか】

○南信の伊那市の出身。小学校の頃は、算数と理科、ちょっと音楽も大好きだった。
○電気の関係とか、コンピューターとかの仕事に就きたいなあと思っていて、大学受験の前まで準備をしていた。そのとき、ちょっと身内に病気になった人がいて、それから、医者を目指した。それから 40 年近く医者をしている。

【皆さんへのメッセージ】

○資格を取らなきゃいけないので、勉強はしないと試験は受からない。だけど、勉強だけではだめ。病気になったご本人やご家族には、思いやりをもって接しないといけない。だから、皆さんもお友だちとおもいやりをもって仲良くすることが大事。人間の愛というものを育んでいかないといけない。

○もう一つ大事なのは体力。看護師さんには夜勤がある。ちょっと不規則な仕事をしなきゃいけない。やっぱり体力がないともたない。運動もしっかりし、体力を鍛えるということもしてほしい。この中で一人でも、医療従事者、私たちの仲間になってもらって、活躍してくれる人が出てきてもらったら嬉しい。

子どもたちの感想より

大変な今、尽力していただいている医療従事者の方々に、こどもたちと共に心より感謝いたします

いいづなびょういんがいちばんやくにたつから、わたしもみんなのやくにたちたいです。びょういんのなかにたくさんのひとがはたらいてるってわかったからびっくりしました。（1年）

わたしも、いりょうじゅうじしゃになりたいと思った。勉強だけじゃだめなんだと思った。かんじゃさんへのおもいやりのこころがひつようなんだと思った。（2年）

コロナウイルスがふえていて大へんなのに、手じゅつや手当などしていてすごかったです。ベットの数と医りょうじゅうじ者がたくさんいてびっくりしました。医りょうじゅうじ者になるには、大学やせんもん学校を６年間もいくことがわかりました。かんじゃさんのことをずっと思っていていいとおもいました。（３年）

医りょうじゅう事者の人たちは、大学やせん門学校に行ってからしけんを受けてめんきょをとると分かりました。いいづな病院の中を見て、やくざいしさんになりたいなと思いました。いいづな病院の中を見て、リハビリセンターやいろいろなところがあったからびっくりしました。（３年）

最初、かんごしさんとドクターは知っていたけど、どんなお仕事かは知らなかったから、お話を聞けてよかったです。私は、他のしょうらいのゆめが決まっていたけど、お話を聞いて、かんごしさんもやってみたいと思った。理由は、私は人を助けたり、こまっている人を助けたりするのが好きだからです。（４年）

今はコロナで大変だけど、くんれんをしているから、いざとなったときに、たのもしいなあと思いました。いいづなびょういんには、たくさんの係の人がいて、全員一人一人ちがうしごとがあり、みんながんばっているから、すごいなあと思いました。（４年）

いいづな病院では、何百人もの人たちが働いていて、みんな医師やかんご師なわけではなく、わたしが知らなかったやくざいしやはいしゃさんなどもいっしょに働いているということがわかってびっくりしました。わたしの夢はかんご師ですが、かんご師は思ったいじょうにむずかしいと思いました。ですが、仕事は大切なものなので、夢に向かってがんばりたいです。（５年）

病院で働くには、すごい大変なんだと思った。ただ働くだけでなく、思いやりを大事にしていることが大切だと分かった。ぼくの将来の夢は医者だから、お話を聞けて良かった。（６年）